

「奉納品」のお願い

櫛引八幡宮「収穫感謝祭」にあたり、広く皆さま方に「奉納品」の献上をいただきますようご案内申し上げます。

お供えいただきました「奉納品」は11月23日の「収穫感謝祭」にて御神前にお供えし、皆さまのご健康とご多幸をお祈りいたします。



米・酒・野菜・卵・果物・菓子・花など
神さまがお喜びになれるもの

生産者に限らず、どなたさまでも御奉納いただけます。

当日（11月23日）の一週間前程より受付いたしますので、社務所へお持ち下さいませ。

お問い合わせは当宮まで

櫛引八幡宮社務所
0178-27-3053
8:30～17:30

収穫感謝祭

わが国は、お米を中心とした農作によって栄えて来た歴史があり、かつて農業が中心となっていた産業構造は時の流れとともに、さまざまな分野が発展し今日に至っております。しかしながら、いつの時代においても「五穀豊穣」を願う気持ちは日本人の心に受け継がれ、秋に「穫り」と共に人々が喜ぶ姿は国が栄えている象徴でもありません。

今回ご案内いたします祭礼は、旧暦五月十四日に齋行いたしました、「春季例大祭・祈年祭」と対をなす祭儀です。春に五穀が無事に実り国が発展しますようにと祈り、無事に多くの収穫を得ることが出来た事への感謝、そして後の皇室安泰・家内安全・商売繁盛・事業安全等をお祈りいたします。

この祭儀は数多くある神社の祭儀の中でも、特に重儀である「大祭」として扱われており、宮司は一年に三度のみ着ける「衣冠」と呼ばれる装束にて祭儀に臨みます。

当日の参進行列には、神職・総代のみならず、南部里神楽の奉仕者による獅子や囃子も加わり「ハレ」の幕開けとなり、秋から冬へと季節が変わりゆく境内を進む姿、更には七五三祝の子どもたちの姿も混ざぬくもりのある雰囲気



装束を着け本宮へと参進する神職

宮司が御本殿の御扉をお開き申し上げ、神職によってご神前に神さまがお召し上がりになられる食べもの「神饌」が捧げられます。

この「ハレ」の日に御神前にお供えいたします「神饌」は海の幸・山の幸のみならず当宮に伝統として伝わる赤飯も捧げられます。



「お米」が材料となる様々な神饌



崇敬者より献上された「奉納品」皆さまに御奉納いただけます(裏面をご覧ください)

次に、宮司が祝詞を奏上し本日の祭儀の趣きを申し上げます、その中に五穀が豊かに実った旨の奉告があり、感謝の気持ちが奏上されます。更に、皇室の安泰・世界の平和・人々が皆幸せになりますようにとの願いが込められた言葉も申し上げます。

祝詞の奏上が納められますと、巫女が「浦安の舞」を奉奏し、更に南部里神楽の奉納となり、勇壮な動きによって神さまの御神威が高められ、祭りの場は「静」と「動」の局面を迎えます。



巫女による「浦安の舞」



矢澤沢神楽会による「権現舞」

そして、祭礼はクライマックスへ・・・ハレの舞台に集う参列者のひとりひとりが玉串を捧げて、お祈りをされます。

神さまの想いが清らかな祭りの場に明々と灯る蠟燭の火のごとくかがやき、「お恵み」として授けられます。

ひとりひとりの願いも祭りの場にこだまし、神さまもその望みをおききになられました。

神さまと人々が共に、同じ場に集い感謝の気持ちをもち、賑わうことによって、神さまと人が共に祝ひ、ありがたい力をお授けになる。

そして、季節は移り冬となり神さまはお籠もりになられる事により、次の春もまた良き年を巡り合わせられる。「収穫感謝祭」はその祭りの場です。

素敵な日に、お恵みを

お受けになられませんか。

皆さまには、御祓いをお受けいただき、そして「しあわせ」をお祈りいただけます。

〜ご参拝・ご参列をお待ちいたしております〜